

作成日：令和元年10月21日

議事録作成者：田中 恵

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校
令和元年度 第2回学校関係者評価委員会議事録

- 1、開催日時： 令和元年10月21日（月）10：00～12：00
- 2、開催場所： 福岡ベルエポック美容専門学校 705教室
- 3、参加者： 学校関係者評価委員 計11名

【評価委員参加者】

| | | |
|-----------|---------|-----------------------------|
| 力武 毬絵 | 卒業生代表 | 美容師科 |
| 築地 美穂 | 卒業生代表 | トータルビューティ科 |
| 石井 和子 | 保護者代表 | 美容師科1、2年生 |
| 矢ヶ崎 裕和 | 高等学校関係者 | 福岡県立香椎高等学校 校長 |
| 春山 大輔（欠席） | 地域関係者 | 大浜自治協議会 大浜祭り委員会 委員長 |
| 早田 健（欠席） | 業界関係者 | 福岡ブレンド(lott annibirth オーナー) |
| 矢田 綾香 | 業界関係者 | 日本化粧品検定 顧問 |

【学校側参加者】

| | |
|------------|----------------------------------|
| 田中 浩一 | 福岡ベルエポック美容専門学校 学校長 |
| 岩村 勇（欠席） | 福岡ベルエポック美容専門学校 運営本部長 |
| 菅原 大輔 | 福岡ベルエポック美容専門学校 事務局長 |
| 佐藤 誠 | 福岡ベルエポック美容専門学校 事務局長（11月1日より） |
| 仁村 将大 | 福岡ベルエポック美容専門学校 教務部長 |
| 富永 理恵子（欠席） | 福岡ベルエポック美容専門学校 教務部トータルビューティ科 学科長 |
| 田中 恵 | 福岡ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター センター長 |
| 藤井 美江 | 福岡ベルエポック美容専門学校 広報センター センター長 |
| 久原 靖司（欠席） | 福岡ベルエポック美容専門学校 キャリアセンター |

4、会議概要 【進行：仁村教務部長】

(1) はじめに【田中学校長】

AIなどの社会の変化とともに教育を取り巻く環境が大きく変わろうとしている中、人
ができることである考えること、発想力、企画力を養う教育が重要である。美容を通じ
てそういった教育をしていきたいと思っております。

(2) アクティブラーニング型授業の振り返り【田中学校長】

<本年度の研究授業前期報告>

授業者：15名

■主な実施状況

- ・基本的な指導技術が向上している。
- ・ALのねらいの授業ができています。
- ・KJ法等を取り入れた授業。
- ・指導と評価の関係。
→指導はできるが、評価をするのはなかなか難しい。評価（形成的評価）を意識した
授業が大切。
- ・実物（写真含む）を活用しての授業ができています。
- ・挨拶指導など授業規律に努めている。

■授業改善について

1、講義形成の授業

シラバス・指導計画（前期、単元、領域ごと）

基礎的知識・基礎学力

導入の工夫（学生の学習意欲の喚起）※非常に重要

歴史から入って伝える等工夫をする。

展開の工夫（能動的な授業、課題解決型）気づく実習を心がけていただきたい。

まとめ（学習の定着・・・）

2、実習・演習の授業

基礎的知識、技術の修復、応用的発展、作業ではない気づく実習。

観察力、思考力、表現力を身につける。

■「わかる」構図について

覚える→忘れる（大半）

忘れないために！！

覚える→「わかった」状態

※基礎基本を教えて、実験実証を行い、「わかる」構図をつくる。

単元の中でしっかり分かるような指導をしていただきたい。

■アクティブラーニングの一例について

次に繋げる質問で整理し考えさせる。正しい見方、考え方を

■滋慶教育科学学会発表

第24回（2017年度） 12月7日：東京

第25回（2018年度） 12月5日：大阪

第26回（2019年度） 12月5日：大阪

美容師国家試験 100%達成の教育効果の検証

※特に、学業等に不安を感じる学生の指導改善の視点

～まとめ～

アクティブラーニング導入の効果と教員の意識改革で

学習意欲の向上・精神安定化の高まりにつながっている。

～その他事例紹介～

西日本新聞 9月23日の記事

須恵中学校の挑戦 ※学ぶ過程重視への転換※（中学校の取り組み、教員意識改革）

定期試験をやめた。年に2回のみ。評価制度を変える。教育を工夫していく。

中学、高校の教育方針が変わっていくと専門学校も変わる。

(3) 最近の教育事情【田中学校長】

① 2020年から小中高の学習指導要項改訂

② 新学習指導要項の要点（小学校で英語、プログラミングの授業が導入される）
何ができるようになるか、どのように学ぶか、何を学ぶかが重要。

③ 大学入試改革（共通テスト）※センター試験など

今までは、「知識」「技能」が問われたが、今度はプラスして「思考力」「判断力」
「表現力」が求められる。

- ④ 教育の無償化（幼児教育、高等教育の無償化、私立高校の授業料実質無償化）

※文部科学省 HP 参照

専門学校：授業料等減免、給付型奨学金の導入。

※本校は令和元年 9 月 20 日付で、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第 8 号）による修学支援の対象機関となりました。

さらに教育の質を高める所存です。

わが国の資源・財産は教育です。今後ともお力添えをお願いいたします。

～事例紹介～

大学等進学実現アシスト事業→生活困窮者自立支援法の学習支援事業の活用

(4) 2019 年度滋慶学園・福岡ベル 事業報告 前期総括【菅原局長】

第 1 回学校関係者評価委員会でご意見いただいた上で前期の経営・運営状況に関して総括をお話いたします。

またこの度、11 月 1 日で異動となり佐藤が事務局長として就任します。

今後ともよろしくおねがいたします。

■学校のおかれている状況

少子化の影響で 18 歳人口は減少傾向。外部環境としては入学者は減少する可能性有。先生、学生一人ひとりが「入学して良かった」と思える学校を一緒に作っていききたい。

■組織目的

『最新の美容・ファッションを福岡ベルで学ぶ。』

・一人ひとりを大切に！と 1 コマ 1 コマの授業が一番大切。

・その他、重要視している 3 点

① 企業コラボによる産学協同教育（現場実習 ※現場での実践的な学び）

② トップサロンゼミ・トップブランドゼミの実施（現役の方に現場の授業を実施頂く）

③ 姉妹校の美容 4 校と連携し、相乗効果を発揮する。（東京研修・韓国研修）

※今年度は韓国研修の実施はなし。

<前期総括>

1、広報（学生募集）

学費で学校運営をしているため良い教育を行うためには広報も重要。

2020 年度生は現状で 17%UP（昨年度比） ※年々入学者を増やせている状況

2、教育

・中途退学者及び長期欠席者（現状）

昨年比微増

・資格合格率

第 39 回美容師国家試験結果：98,6%（県内でも上位の合格率）

3、就職

美容の業界は人材不足である（特に若手）が今年度は難航している。

専門的な技術・知識を身につけてしっかり就職していくことが大切である。

■学内での喫煙について

健康増進法の施行に伴い敷地内は禁煙にしている。

近隣で喫煙しないよう、しっかり指導しており、今後も続けていきます。

■持続可能な開発目標(SDGs)に関して

学園グループとして取り組んでいる。

例：デジタル化のプリント配布や実習報告でペーパーレスに（一部学科より開始）

※FREE Wi-fi の環境も拡張し、学生がデジタルで見ることができる環境を設置。

■地域との連携（一部事例の紹介）

・地域清掃活動を開始（全学生、各クラスや学年ごと実施）

・地域貢献活動（地域の方向けにハンドマッサージやネイルを実施）

※学生の実践的な学びにもなっている

(5) 挨拶および自己紹介【佐藤局長より】

11月1日より事務局長に就任いたします。

親御世代が経験していない教育を子供が受ける時代。教育環境が変わる中、本日のような機会を大切に、今後もよりよい教育を行う為に邁進いたしますのでご協力の程宜しくおねがいたします。

(6) 皆様からのご意見及び質疑応答

■矢々崎様：

授業の方法が大きく変わっている。(アウトプットが重要)

高校でもいろいろと取り組んでいる。

専門学校選びのポイントはどういう力をつけて社会にだしてくれるかになるが本日はそれが聞けたのでよかった。

■矢田様：

国家資格合格率は非常にいいが、資格を取得してもなかなか就職が決まらない学生はどう支援されますか？

⇒採用試験に合格するまで就職支援を行っている。

※基本的には卒業までに就職出来るよう支援しているが、稀に卒業しても決まらない場合や卒業後の転職活動なども支援している。

就職が決まらない学生の理由はなんでしょうか？

⇒周りの学生の影響を非常に考える世代であり第一志望に不合格になると精神的に

不安や羞恥心がでて次へとなかなか繋がらない。また人手不足のため、まだ大丈夫と先延ばしにする傾向もある。(例：友人の話を聞いて自分も活動しているとし、なかなか実際自分の行動にならない学生もいる)

こだわりや理想が強い学生もおり、そのGAPで就職活動が進まない学生もいる。

■築地様：

高等学校でもメイクの授業も行っている。

共通していえることはできないことが悔しいではなく恥ずかしいで次に進まない。

人材不足だからこそ横柄になりやすい環境でもあるが、授業の中でも社会人になるに向けて教育していきたい。また2年生になると就職が決まった学生と就職が決まらない学生に分かれるがその中でどちらかに流される学生もいる。

早く就職きまった学生もアフターフォローが必要だと感じる。メンタル的なサポートや肯定的なきちんとした自信をもてるようなフォローが必要ではないか。

また就職へのモチベーションをしっかりとつくれるような

卒業まで気を抜かせない教育が重要ではないかと思う。

■力武 毬絵様

美容師でも精神的にあきらめて退職してしまう方がいる。

今美容室で1年目でも誰でもできるあたりまえのことをMTGで週間目標としちよつとずつ行っている。

例：ほこりをキレイにする、笑顔であいさつをするなど

そういうことを学校でもできたらいいなと思う。

先生と学生の信頼関係にも繋がるのではないかな。

仁村) 高校ではいかがでしょうか

⇒矢々崎様：高校でも取り組みはしている。

手放すことに恐怖感がない学生もいる。自分が必死になったものは手放したくはないがなんとなく進んでしまっていて恐怖感がないケースが多いのではないかな？！

失敗してもやり続けることを小中高で伝えたい。

簡単に手放すことは課題であると考えている。

■石井様

専門学校からの電話がある

一人ひとりみてくれている⇒手厚くサポートしてくれている

大学と専門学校の違いはあるが、専門学校は親身になってくれるという点、専門知識を得ることができるので社会で強い人材になる点など強みがしっかりあるのもっと広めていただければと思う。

■築地様

企業コラボや現場実習も学生に営業活動させるのもいいのかなと思う。

現状は緊張感が足りないのでは?!ただ行うだけでなく成果を残すことができるような取り組みにできたらいいと思います。

～最後に～【仁村教務部長】

情報公開についての説明

※他機関の内容もよければご参照くださいませ。